

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100017		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム秋桜	ユニット名	
所在地	長崎県長崎市滑石6丁目4番3号		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年3月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成25年3月1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームは地域密着型サービスに位置づけられているため、地域との連携に力を入れています。地域の方々との交流が多く、地域行事へご招待頂いたり、地域の小学生との交流会を行ったりと積極的に交流を行い、連携を図っております。また運営推進会議においては地域の民生委員や自治会長等にもご参加頂き日々の活動報告や情報交換等を行い、地域とのネットワークを広げることができています。季節に応じて外出活動(お花見外出、大村菰蒲園外出、ランタンフェスティバル外出等)を行ったり、陶芸や小物作りなどに取り組んだりと利用者が楽しく安心して過ごせるような働きかけを行っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム秋桜は複合施設の中にあり、1番地・2番地と言うユニット名が付けられている。リビングは広く、木がふんだんに使われ、落ち着いた空間が造られており、利用者の方々はソファに座ってお茶をしたり、時代劇などを見られている。家族が持って来られた大量のネギの出荷準備をする体験が行われたり、干し柿作りや甘酒作りなども行われ、陶芸や粘土で小物作りをするなど、利用者の方々が持っている力を活かした取り組みが行われている。利用者からの「焼肉が食べたい」「お寿司を食べに行きたい」と言う要望を叶えたり、家族の方も一緒に外出活動を行う事もでき、職員の人員体制が限られている中でも、管理者を中心に職員は団結し、利用者の生活を支え続けてこられた。今後も、“ご本人のできること”を増やしていくと共に、両ユニットで協力しながら日々の生活の中で歩行訓練やリハビリ、レクや体操なども取り入れ、ホーム周辺の散歩を増やしていくための更なる重度化予防に取り組まれていく予定にしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に職員で理念を復唱している。施設の行事にもご参加頂き連携が図れている。地域の子供たちとの交流会や地域行事への参加を積極的に行ない交流が図れている。	ホームでは「ゆったり楽しくありのままに」を理念として掲げており、利用者の方が読み上げて下さる事もある。利用者のお気持ちに寄り添い、個別に応じたケアが行われている。地域の方との交流も行われ、安全パトロールや子ども110番の家なども担っており、陶芸教室も楽しまれている。	介護保険の理念“自立支援”を再確認し、時間がかかっても“ご本人のできること”を大切に支援を続けていく予定にしている。リハビリや体操なども日々取り入れながら、重度化予防に取り組んでいきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周辺の散歩や買い物に出かける中で地域の方々とお話しをする機会があった。昼食外出に出かけた際にお知り合いの方に再会する等、住み慣れた地域で生活することを継続できている。	地域行事や学校との交流も多く、滑石ふれあい秋祭りなどに参加すると、利用者の席を用意して下さっている。施設のお祭りには地域のボランティアの方が来て下さり、4階のデイでも園児がお遊戯をして下さり、利用者の中には涙を流される方もおられる。滑石保育園のお遊戯会や運動会にも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流を通して理解が深まっている。また認知症サポーター養成講座に事業所を代表してキャラバンメイトを派遣している。また平成会アカデミーでヘルパー育成を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より2ヶ月に1回開催している。日々の活動内容は表と写真にて報告している。会議をきっかけに地域との交流の機会が広がっており、地域との連携が図れている。	会議には家族、地域の方、市の方等に参加頂いている。日々の活動状況を写真で説明しており、意見やアイデアを頂いている。ホーム火災の話題も出ており、災害対策も話し合われ、「夜間の様子を知りたい」という意見が上がり、写真や口頭にて報告が行われた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご出席頂き、ご意見やアドバイスを頂いている。介護保険等について不明な点があった際に電話にて尋ねている。介護相談員の受け入れを行なっている。	法人として市の介護予防事業を受託しており、施設長が中心になり、担当者で連絡を取り合っている。運営推進会議の際にも意見を頂いており、毎年、介護相談員も受け入れている。介護保険や生活保護の件で尋ねた際にも丁寧に対応して頂き、災害対策に関する市の査察もあり、避難経路等のアドバイスを頂いた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯は職員が一人見守りであることから防犯のためにユニットの入口を施錠している。それ以外は開錠し身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。事業所内で委員会を立ち上げ定期的に勉強会を行なっている。	勉強会では高齢者疑似体験を行い、高齢者の立場を理解する機会になった。転倒が予測される方にはベッド臥床時の転倒防止のための話し合いも行われ、予想されるリスクを家族に説明している。“ちょっと待つ”などの言葉の振り返りも行われ、帰宅願望が見られる時は、傍でゆっくりとお話するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	体拘束の委員会と共に高齢者虐待についても法人内で委員会を立ち上げ、勉強会を行なっている。事例検討や講義などを通して職員が学ぶ機会を設けている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では、職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について、学ぶ機会は少なく活用する機会も少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、ご家族へ重要事項説明書と契約書を分かりやすい表現で説明し同意を得ている。ご家族が不安や疑問がないように一つ一つ確認しながら説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会ではご意見やご要望を頂いた。玄関前にご意見箱を設置している。ご家族からのご意見を大事にして全職員へ伝達し、早急に対応するように努めている。	面会時や運営推進会議などで職員の言動や対応について、家族から意見を頂いた時は職員間で共有し、謙虚に反省すると共に日々のケアに活かしている。家族懇談会では家族同士の交流の機会になっており、利用者とのお茶会も楽しませている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中で職員からの意見や要望等を聞き対応している。ユニット会議や個人面談時にも職員の意見を聞いている。今後も職員が意見を言いやすい雰囲気作りをしていきたい。	会議や個別面談の時に職員と意見交換しており、職員からの意見は多い。人員体制などの要望は法人全体で検討されており、職員の募集をかけ、新規職員を配属する等の対応が行われている。職員同士の団結力は強くなっており、職員同士の情報交換も十分にできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、人事考課を行っている。ユニット会議にも参加され職員の意見や要望を汲み取って頂いている。研修会など勉強や学びの機会を設けて頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会においては、参加させて頂き復命書をもとに他の職員へも情報を共有している。実践力については職員一人ひとりがもっと身に付けていく必要があると感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長崎市グループホーム連絡協議会の全体研修会や地区会において、他のグループホームとの勉強会や研修会などを行い交流が出来る。相互に意見を出し合い、サービスの質の向上に努めている。		



自己	外部			自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		周りの職員にも対応の仕方を聞き工夫しながら意見を出し合い実践している。常に利用者の立場に立った介護を心がけている。入居者の声に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		ご家族からは面会時に状態を説明し、ご意見やご要望等を伺っている。また入居者の昔の生活や考えなどをお聞きし、新たな発見として捉えケアに生かす工夫をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		事前にアセスメントを取り情報収集をしっかり行って現状把握を行っている。ご本人やご家族の思いや要望を伺いながらニーズを汲み取り、安心してサービスを受けられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		入居者ができること(食器洗い、洗濯物たたみ、テーブル拭き等)は可能な限りお願いしている。必要に応じて職員が対応しているが、自立支援を念頭に置いて取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		ご家族の面会時には日々の様子や状態等はこまめに報告している。遠方の方は電話や手紙、メール等にて連絡を取り合っている。ご家族との絆を大切にしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		以前入居者が住んでいた家の近所の方が来訪されたり、以前から通っていた教会へ行かれたり、昔からの繋がりを継続した支援ができている。	家族や知人などが面会に来て下さり、ゆっくり過ごして頂いている。失礼にならない程度に職員も同席し、当時のお話などを伺っている。ドライブの時に自宅周辺に行き、利用者との会話が弾んでいる。自宅近くのスーパーに出かけたり、自宅の畑や墓参り、美容院、教会、買い物等に家族と行かれている方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		利用者それぞれの性格や個性があるため、職員が仲介役となって対応し関係性が悪化しないように工夫している。お一人お一人の個性を大事にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームで対応が難しくなった方においては、同法人内でスムーズな移行ができるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のお話をじっくり伺い、また表情や様子、口調などを観察して状態把握に努めている。些細なことでも気になることはご家族へお伝えして一緒に考えるよう努めている。	食事中やおやつ時間、入浴の時間、団欒時などの1対1の関わりの時に、利用者とお話している。日頃の生活の中でも、「〇〇が食べたい」「外へ行きたい」等の要望を話して下さっている。意思疎通が難しい方には入浴時に一緒に歌を唄い、言葉を引き出しており、職員から声かけし、思いを聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時に入居者の昔の生活習慣や好みなどをお聞きしたり、不明な点は一緒に考えたりとご家族にもご協力頂きながら、入居者の生活を支えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のペースや習慣、好みなどを把握し、排泄や食事量についても観察し記録に残している。些細なことも職員間で申し送りを行なって情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族から意見や要望を伺いそれを元にユニット会議の中で話し合っている。ご家族と職員と一緒に話し合う場を継続して設けて、ご家族を含めチームで話し合っていく必要がある。	毎月の秋桜会議以外にも、必要に応じて職員間で話し合い、担当職員を中心に計画の作成をしている。計画には“洗濯物をたたむ・買い物・塗り絵・時代劇を見る・編み物、折り紙”などの楽しみや役割も盛り込まれている。家族と密にコミュニケーションを図り、ご本人と家族の意向を取り入れるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が発した言葉や健康状態などを記録し、情報の共有に努めている。連絡ノートも活用している。ケース記録や業務日誌などに細かくその日の入居者の様子や状態などを記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能福祉施設ということで、デイサービスからカラオケを借りたり、プランターに植物を育てたりその時々ニーズに合わせて取り組んだ。陶芸や粘土で小物作りなども取り組んだ。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用することが少ない状況であるため、今後活用しながら入居者が安全で豊かな生活ができるように工夫していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、受診はご家族にお願いしている。受診前後の連絡や報告等を細かく行っている。グループホームにて受診する場合は、受診結果をご家族へ電話や手紙にてお伝えし、利用者が安心して医療を受けられるように配慮している。	希望する医療機関に受療されている。1つのユニットでは家族が受診介助し、家族と職員の情報共有もできている。一方のユニットでは職員が受診介助しており、往診を受けている方も多い。今後も主治医と相談しやすい関係を築ければと願いつつ、対応を続けている。デイの看護師との連携もできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師がいないため、緊急時などは主治医へ直接連絡を取り、指示を仰いでいる。他の部署に看護師が出勤している場合は、助言をもらうこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での生活状況や健康状態などを細かく病院側へお伝えし、情報の共有に努めている。退院時もサマリーをもとに情報を頂いている。ご家族や病院側と連絡を取り合い、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が見込まれる場合は早い段階で他の施設や医療機関への申し込みをお願いしている。ご家族へ事業所で「できること」「できないこと」を説明し方針を共有できている。可能な限り入居者が永く施設で生活できるように健康管理や状態把握に努めている。	看護職員の配置がないため、終末期の対応は難しい状況にあり、重度化した場合は他施設等の入所申し込みが行われている。主治医と連携して、医療的な処置が常時必要となる事が予想される時点で、家族と話し合い、医療機関に入院された方もおられる。食事が入らない方は点滴等も受けながら、ぎりぎりまでホームで対応させて頂いた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のためにマニュアルを作成し、AEDも設置している。消防避難訓練も定期的に行っており、職員も意識を高く持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民も含め、定期的に消防訓練を行っている。災害時の避難誘導や声掛け、対応などの周知徹底に努めている。地域住民との連携、協力体制も整っていると感じる。	利用者や消防署(年1回)と一緒に昼夜想定訓練を全館で行っている。廊下を挟んで左右に各ユニットがある事から、火災等の発生場所に応じて、どちらかに避難する訓練も行われている。近隣マンションの掲示板に避難訓練をお知らせし、地域の方への協力依頼をしており、施設1階に厨房があり、数日の食料が保管されている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の思いを大切に職員本位にならぬように入居者に合わせた声掛け、対応を心がけている。特に排泄時や入浴時は配慮している。	利用者とお話する時は視線を合わせ、敬語を使った優しい声かけをしている。入浴や排泄時もご本人への配慮を忘れず、居室に入る時はノックをする等、プライバシーの保護に努めており、希望に応じて同姓介助も行われている。個人情報保護についても徹底し、書類関係の保管場所にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いや気持ちを表出しやすい雰囲気作りを心がけている。表出が難しい方はご家族からも情報を得ながら、表情や様子を観察して関わっている。家人への連絡や買い物の意向がある時は実践している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間などは可能な限り、入居者の希望やペースに合わせて対応している。熱めのお湯が好きの方、ゆっくり浸かるのが好きな方、個々に合わせて取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や祭りなどの行事の際は、お化粧をして参加して頂いている。また外出時は、お気に入りの洋服に着替えたり、おしゃれして外出できるように配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者にもやしの根切りなど手伝って頂きながら取り組んでいる。入居者の好みや食事形態を把握し、一人ひとりに合わせて食事を提供している。好き嫌いがある方には代替を提供している。	一緒に買い物に行く機会を作ると共に、ベランダで野菜も作られ、旬の食材を使った美味しい料理が作られている。豆の筋取りや野菜の皮むき、食器洗い等を手伝って下さり、敬老会では皿うどんを注文し、皆さんで食べる事ができた。おはぎ作りや干し柿作り等も利用者を楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重を測って増減をチェックしている。水分補給もこまめにチェックして紅茶やコーヒー、バナナジュースなど工夫しながら提供している。栄養が偏らないように献立を考え工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間に1回、歯科衛生士の往診があり、口腔ケアに取り組んでいる。また口腔体操などのアドバイスを頂いている。毎食後に個々に応じて口腔ケアを行い清潔に保つよう努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導が必要な方には排泄パターンを詳しくチェックしてできるだけトイレで排泄して頂けるよう支援している。入居者が不快にならないようにさりげなく対応を行っている。	トイレでの排泄を大切にしており、日中は布パンツで過ごされている方もおられる。食事前にトイレ誘導したり、ご本人の表情や行動を見ながら、トイレ誘導をしている。失敗された方は、さりげなくトイレに移動して頂き、後始末の支援が行われている。排泄パターンを把握する事でトイレでの排泄が増え、尿取りパットの使用も減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように水分をこまめに提供したり、軽い体操をして身体を動かして頂く等働きかけている。また主治医と相談しながら、下剤の調整を行ったり、腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の配置上、希望の時間帯や日にちがずれることがあるが、1週間に2回は入れるように対応している。入浴は個々の状態やペースに合わせてゆっくり入って頂けるように努めている。	入浴が大好きな方も多く、“一番風呂がいい”と言う方もおられ、希望に応じて入浴して頂いている。ゆっくり湯船に浸かって頂いており、皮膚が弱い方は綿素材のタオルを使用している。入浴を好まれない方には声かけを工夫し、“得意な事や好きな事”等を話しながら、お風呂場に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の利用者の体調や表情、様子等を確認しながら安心して休めるように対応している。冬場は厚めの布団を着ていただくたり、暖房の調整を行なうなど気持ちよく休めるよう対応している。乾燥するため濡れタオルをかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容が書いてある表を個人のケース記録に挟み、いつでもすぐに確認できるようにしている。服薬時は、名前、日付、時間帯などを必ず読み上げて誤薬がないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜刻みや洗濯物たたみ等の役割を持って頂いている。昔の経験を活かして一緒に干し柿作りや甘酒作りなどを行った。陶芸や粘土で小物作りなど入居者が持っている力を活かして取り組んだ。ボランティアの催し物を見学した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に同行したり、施設周辺の散歩などを行い気分転換を図って頂くことができた。また施設内で開催されるボランティアによる催し物や地域の行事に参加するなど地域との関わりを深めながら楽しみを見つける工夫をしている。外出の機会を増やせるよう取り組みたい。	天気の良い日には周辺の散歩を楽しまれている。大村公園や桜の里公園、大村菖蒲園、大神宮でのお花見を楽しまれ、おくんち、稲佐山、ランタンフェスティバル等にも出かけている。家族の面会も多く、外出活動にも積極的に誘い、一緒に外出活動を行う事ができた。ジョイフルでおやつを楽しまれる機会も作られ、外出の回数は増えている。	職員の人員的な制約もあるが、今後も意識して散歩を増やしていきたいと考えている。近場の外出活動などを増やしていきたいと考えており、日々の生活の中でも重度化予防に取り組み、歩行訓練やリハビリ、レクや体操などを増やす事で、下肢筋力の維持向上に努めていく予定にしている。



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、お金や貴重品などはお預かりしていない。入居者の日用品や入居者が購入したいものがある際は、立て替えにて購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から連絡があった際は、ご本人に代わりお話しして頂いている。ご本人より希望がある際も電話をかけている。手紙に関しては現在書ける方が少なく年賀状などは一言書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や植物を飾ったり、トイレや居室が分かりやすいように大きく字を書いて掲示した。テーブルの配置を定期的に変えることで、気分転換になっている。空調の調整や加湿なども意識して行っている。	両ユニット共同で、季節感を取り入れたディスプレイを作成し、来訪者からも好評である。1つのユニットでは玄関前に行事予定や外出の予定などを掲示する事で、家族の面会時にもすぐ分かるように工夫した。リビングにはお花を飾ったり、利用者の写真や作品(陶器)を飾り、会話のきっかけにしており、利用者同士が仲良く穏やかに過ごせるように座席の工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	光が差し込む窓側にはソファを置いているが、あまり活用されていないのが現状である。リビングは気の合う入居者同士が隣に座ってくつろげるように、配席や位置など随時工夫し対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に馴染みがあるタンスやベッド、椅子などを持ち込んで頂き、使い慣れたものを使用することで安心して過ごすことが出来るよう工夫している。	お部屋がわかるように、居室の前に大きく「〇〇さんのお部屋」と書いている紙が貼られている。お部屋には、鏡台とクローゼットを備え付けており、タンスや鏡台、ぬいぐるみ等が持ち込まれ、大切な仏壇を置かれている方もおられる。写真を飾られたり、折り紙の本と折り紙を持ち込まれている方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の場所を入居者が認識できるように工夫している。施設の構造がバリアフリーになっているため段差が少なく、手すりなど必要な箇所に設置しており、安全に生活できるようになっている。		

事業所名: グループホーム秋桜

作成日: 平成 25 年 3 月 10 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	自立支援に向けて、散歩や体操などを取り入れながら入居者の重度化予防に取り組む。	施設周辺の散歩や体操などを実施して、下肢筋力の維持・向上を図る。	・入居者に買い物やごみ捨て等に同行して頂き、日々の活動量を増やす。(職員の意識を高める) ・施設周辺の散歩などを状況に応じて実施する。	6 ヶ月
2	49	近場の外出活動やドライブなど、外出の機会を増やす。	近場での外出の機会を増やすことで、入居者の気分転換を図ると共に下肢筋力の維持・向上を図る。	・ドライブやおやつ外出などの外出の機会を増やす。	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月